

2015年11月13日

第5回懇談会 資料3

芹ヶ谷公園再整備基本計画

報告書(案)

2015(平成27)年 11月13日

町 田 市

芸術の杜で、
触れて学んで!



目 次

1. 計画の前提	1
(1) 計画の背景と目的	1
(2) 計画対象範囲	1
(3) 芹ヶ谷公園の概況	2
2. 計画条件の把握と整理	7
(1) 計画対象地及びその周辺の状況	7
(2) 上位関連計画等	13
(3) 芹ヶ谷公園の利用概況	17
(4) 関連施設の利用状況	20
3. 計画の課題	22
(1) 中心市街地との関連性からみた課題	22
(2) 植栽の配置に関する課題	24
(3) 新しい楽しみ方の創出のための課題	25
(4) アクセス性の向上	26
(5) 防犯、防災機能の充実	27
(6) 公園予定地の活用	27
4. 整備方針の設定	28
5. 再整備基本計画	31
(1) ゾーニング計画	31
(2) アクセス・動線計画	33
(3) 導入施設の検討と設定	39
(4) 公園利用者数の設定と利用者層・利用圏域の検討	45
(5) 利用者の行動形態分析	50
(6) 環境保全と管理に関する検討と設定	66
(7) 再整備基本計画図の作成	76
(8) 整備水準・概算工事費	77
(9) 鳥瞰図の作成	84
6. 維持管理方法の検討と設定	86

1. 計画の前提

(1) 計画の背景と目的

芹ヶ谷公園は、JR 横浜線及び小田急線の町田駅から北東へ約 700m に位置し、供用面積約 11.4ha の風致公園である。中心市街地に近接し、周辺には住宅地、学校などがあり、利用のしやすさから多くの市民に親しまれている公園である。

公園内には 1987 年 4 月に開館した町田市立国際版画美術館を有している。2014 年 6 月に策定した「(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備基本計画」では、同美術館を芹ヶ谷公園内に建設することが決まった。これにより芹ヶ谷公園は、町田駅周辺の文化施設などとともに、芸術の薫りがあふれる文化芸術を発信する場「芸術の杜」を目指すことにした。

芹ヶ谷公園芸術の杜は、四季を通して花、風景、回遊を楽しめる魅力ある町田薬師池公園四季彩の杜、自然の中で楽しむ総合スポーツパーク野津田公園スポーツの森とともに、本市の中核的な公園として機能していくことが期待されている。

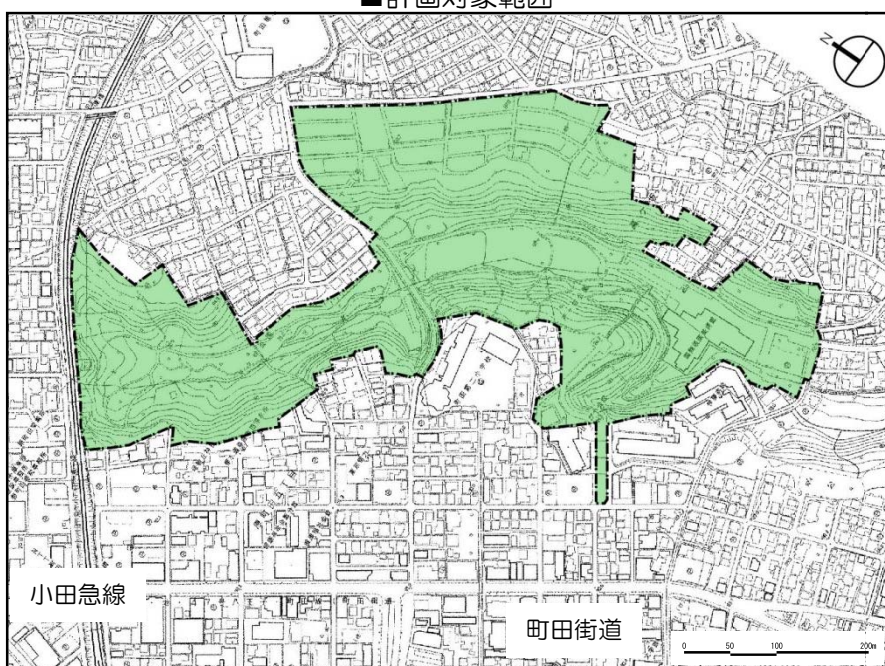
また、町田荘跡地の活用、芹ヶ谷公園に隣接する都営住宅跡地（以下、都営跡地）の活用、公園供用開始後年月を経た、トイレや管理棟など老朽化した施設の改善、防災及び防犯機能の充実が求められている。一方、町田市は多摩都市モノレール延伸及び当地区への新駅構想があり、さらに中心市街地が様々な変化を続けている状況がある。

本計画は、このような状況を踏まえた上で、人口減少社会到来に向けた魅力ある街づくりの一環として中心市街地の活性化とともに芹ヶ谷公園の新たな賑わいづくりを目指すものである。

(2) 計画対象範囲

本計画の対象範囲は、芹ヶ谷公園を都市計画決定した区域に加え、都営跡地を含む、計 15.6ha を計画対象範囲とする。

■ 計画対象範囲



(3) 芹ヶ谷公園の概況

①公園の位置

芹ヶ谷公園は、町田市原町田 5 丁目にあつて、町田駅から北東へ約 700m、徒歩圏内の距離である。町田市の中心市街地に近接し、市街地のシンボリックな公園として存在している。

芹ヶ谷公園は、恩田川へ注ぐ支流が開析した谷戸の一つで、谷戸地形がそのまま残されて現在に至っている。公園周辺は、住宅や学校などが立ち並んでいる。

人の往来が多く、交通量の多い町田街道に近い場所でありながら、街の喧騒を感じない、静かで落ち着いた空間を形成しているのは、谷戸に立地した本公園の大きな特色である。

■公園の位置



②公園の変遷及び位置づけ

【変遷】

芹ヶ谷公園の変遷は以下の表のとおりである。

■芹ヶ谷公園の変遷

年月日	事項	面積 (約、ha)	備考
1961年10月5日	都市計画決定	10.0	地区公園として都市計画決定
1982年1月21日	〃	11.7	特殊公園(風致公園)に種別変更、区域変更及び区域面積の追加
1982年4月1日	供用	4.0	西側エリアのみ約4haが開園
1991年9月7日	〃	11.0	東側エリア約7haを加え、計11haに拡大
1994年2月7日	都市計画決定	12.6	町田荘他が計画決定
1996年4月8日	〃	13.0	ひだまり荘周辺区域を計画決定
2001年6月14日	供用	11.4	ひだまり荘周辺の一部を含み、区域拡大

【位置づけ】

芹ヶ谷公園は、風致公園として区分され、市街地にありながら周辺斜面地に残る樹林、湧水と一体となった緑と水の織りなす豊かな風致を生かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっている。

計画当初は、中心市街地に近く、周辺住民の日常的レクリエーション機能を充足させる必要性から、地区公園として位置づけられたが、園内の在来森林が風致観賞林としての価値が高く、谷戸の地形や湧水など地域の貴重な自然が残されているなどの理由から特殊公園（風致公園）に種別変更した。

1987年4月町田市立国際版画美術館が開館し、美術館と一体となった芹ヶ谷公園は、園内に芸術作品（オブジェ）を展示し、アートを楽しめる公園として市民に親しまれるようになった。

2010年度、有識者による「町田市の博物館等のあり方検討委員会」において、町田市立博物館の工芸美術部門は、芹ヶ谷公園内にある町田市立国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して、文化芸術振興に寄与すべきと結論づけられた。

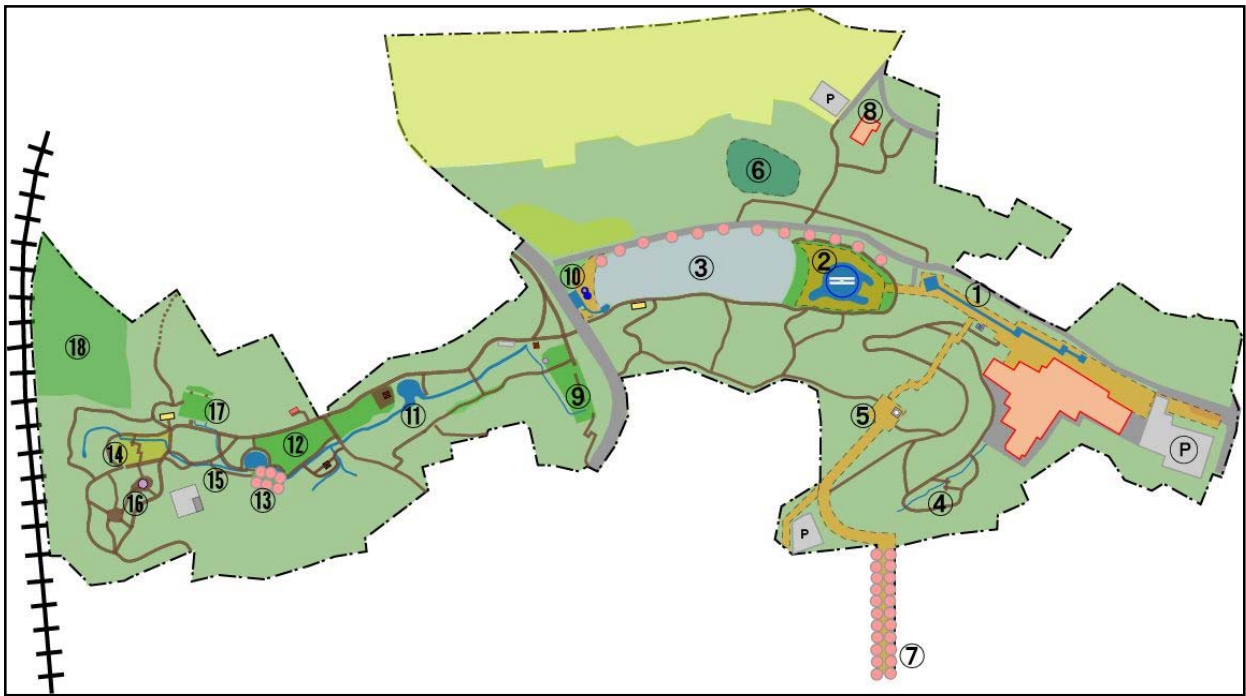
③公園の主要施設

公園の主要施設は以下のとおりである。(図、写真は次頁)

■芹ヶ谷公園の主な施設

番号	施設の名称等	施設の概要
①	せせらぎ(町田市立国際版画美術館前)	町田市立国際版画美術館正面の舗装された園路と一体となったシンボリックな水路で美術館前の空間に潤いを与えている。
②	虹と水の広場	町田市民で国際的に活躍した彫刻家飯田善國作「噴水彫刻・シーソー」があり、多くの家族連れが訪れている。
③	多目的広場	谷地で斜面地を多く含む園内で、運動やスポーツ、凧揚げなど自由に遊べる広場で、さくらまつり、時代祭り(流鏝馬)などイベントにも利用されている。
④	日本庭園(町田市立国際版画美術館裏)	町田市立国際版画美術館裏手の緩やかな斜面樹林地に、日本庭園風回遊園路と流れで構成された園地で、緑豊かな空間であるが目立たない場所にあり利用者は少ない。
⑤	森の丘	斜面地上から園内を展望し、休憩できる小広場。園路の分岐点にもなっており、園内案内をするのに適した場所にある。井上武吉作「my sky hole 88-4」があり、印象的なアート空間でもある。
⑥	冒険遊び場 (2014年9月開設)	樹林地の中で自然の地形や植物などと親しみながら遊べる場所。NPOやボランティアなど大人の指導や見守りの中で、様々な遊びを体験できる常設エリア型施設である。
⑦	南口アプローチ園路	町田街道から公園へアクセスできるサクラの並木を配したプロムナードで、春は花見、夏は緑陰として親しまれている。
⑧	ひだまり荘	公園利用者の休憩施設で、サークル活動の場としても利用されている。
⑨	冒険広場	ブランコ、木製遊具(平均台)、ターザンロープなど遊具を配した広場、ベンチやパーゴラがあって、親子がともに利用できる。
⑩	アーチの泉	公園西北側からの湧水を集めて、アーチ状のトンネルから泉として湧出させている。
⑪	大池	湧水を利用した池を自然石で修景した日本庭園的な園地で、ベンチを配して良好な水辺景観を演出している。
⑫	芝生広場	きれいに管理された芝生広場にあずまやを配し、近くの大池の水辺と周囲の樹林地と一体となった静かにくつろげる空間である。
⑬	花見広場	湧水の流れを利用した小川沿いに桜が植栽された小広場で春には花見客が訪れる。
⑭	カキツバタ園	カキツバタを植栽した湿地の園地で、八つ橋状の園路で周辺が散策できる。
⑮	湧水と流れ	周囲の斜面からの流れを集めた自然の流れで、芹ヶ谷公園の大きな魅力の一つになっている。
⑯	花木園、藤棚	ツバキ、ウメなどの花木とフジは季節の彩りを感じさせる花木園と藤棚は散策コースの重要なポイントとなっている。
⑰	レストコーナー	静かな樹間でベンチを配した平坦な空間で、木々の香りや小鳥のさえずりなどを満喫できる。
⑱	自然保護林	小田急線沿いののり面と自然斜面で、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、シラカシなど常緑樹で構成され、自然遷移の進んだ保護林である。

■主要施設の位置



①せせらぎ（国際版画美術館前）



②虹と水の広場



③多目的広場



④日本庭園（国際版画美術館裏）



⑤森の丘



⑥冒険遊び場



⑦南口アプローチ園路



⑧ひだまり荘



⑨冒険広場



⑩アーチの泉



⑪大池



⑫芝生広場



⑬花見広場



⑭カキツバタ園



⑮湧水と流れ



⑯花木園、藤棚



⑰レストコーナー



⑱自然保護林



■園内のオブジェ

左上：「my sky hole 88-4」
(井上武吉 作/1988年)

左下：「開かれた宇宙」
(高橋清 作/1990年)

右上：「トキオコシ」
(平野杏子 作/1990年)

右下：「彫刻噴水・シーソー」
(飯田善國 作/1989年)



2. 計画条件の把握と整理

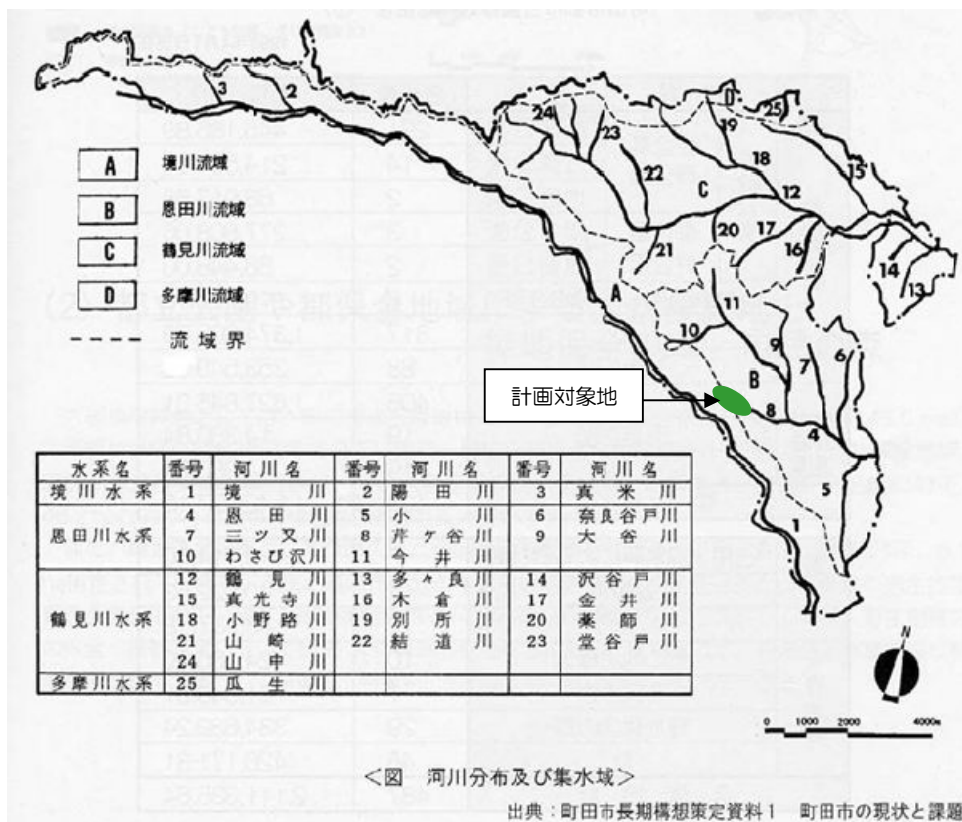
(1) 計画対象地及びその周辺の状況

①自然概況

1) 地形及び水系

町田市は、八王子市、多摩市、稲城市とともに横浜市にかけて広がる多摩丘陵の北に位置している。計画対象地は、起伏に富んだ多摩丘陵に深く入り込んだ鶴見川水系恩田川の支流(かつて「芹ヶ谷川」と呼ばれていた)の浸食によって形成された開析谷の一つで、西北方向から南東方向に細長く伸びた谷戸地形により構成されている。

■計画対象地の水系と位置



谷戸は上流部(公園西北側)で約30~40m、下流部(公園東南側)で約60~70mの幅をもち、台地部と谷底部の標高差は約15~20mである。斜面林であるために、自然地として残されてきた。

谷戸は公園の西北端小田急線の土堤で終わるが、東電鉄塔斜面下で湧水が確認される。この湧水が最上流部にあたり、やや下流部にあたるレストコーナー下、花見広場付近でも確認できる。さらに警備員室西側広場奥の斜面下からの湧水はあずまや脇を流れて水路に合流している。冒険広場奥の斜面樹林下でも確認される。

東電鉄塔斜面下の湧水



花見広場付近の湧水



湧水が確認できるあすまや裏の斜面



冒険広場奥の湧水



芹ヶ谷公園に源を発する湧水は、現在も東京都水道局原町田浄水場が地下水源として利用管理している。汲み上げた地下水の一部を芹ヶ谷公園内に放流している。(原町田浄水場は、災害時における応急給水拠点として位置づけられている。)

放流された水が公園内の自然湧水と合流しながら南東に流れ、町田市立国際版画美術館の東から暗渠に入り、「原町田ふるさとの森」の北東端を南東に流れ、熊野神社(町田市高ヶ坂)の水路に左岸から合流している。暗渠に入る前の湧水は、せせらぎで利用している。

東京都水道局原町田浄水場



水道施設水源

浄水場の水道施設



水道施設水源からの余水



2) 植生

計画対象地の植生は、斜面が町田市市の自然植生であるシラカシ群集の代償植生（二次林）の落葉広葉樹林（クヌギ・コナラ群集）で、クヌギ、コナラ、エゴノキ、イヌシデ、ミズキ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、イロハモミジ、ヤマザクラなどの落葉広葉樹と、シラカシ、アラカシ、ネズミモチ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が見られる。また、一部にスギ・サワラ植林が見られる。

台地上の平坦地はシバ植栽地あるいは、空地雑草群落（刈り草刈り群集他草地）となっている。

斜面の二次林は谷部が水田、台地上は畑地など農地が立地していた頃まで、薪炭林や堆肥に利用されていたと考えられる。市内あるいは多摩丘陵に残る同様の林は、昭和 30 年代以降の、いわゆるエネルギー革命でガスが家庭に普及し始めてから薪炭需要がなくなり、伐採利用されることなく経過した林である。

薪炭林では実生で芽生えたシラカシ、アラカシなど常緑系植物は刈り取られ、クヌギ、コナラ、エゴノキ、イヌシデ、ミズキなど利用される樹木も通常 15 年程度（胸高直径 10cm 程度）で伐られる。

かつての薪炭林は、常緑樹、落葉樹ともにそのまま伸張り、既に斜面の樹林は直径胸高 30cm を超える樹木も見られる。特に小田急線沿いでは保護林として間伐等を行わなかったため、遷移が進行し、実生の常緑樹が低木層から成長している。

低木層は、ヒサカキ、シュロ、アオキ、ツバキ、イヌツゲ、ヤツデの常緑樹のほか、樹冠密度の低い林あるいは林縁部はアズマネザサが繁茂している。落葉樹ではクワ、ムラサキシキブ、ヤマブキ、ガマズミなどが見られる。

公園の谷部となっている植栽地にはソメイヨシノ、ユリノキ、ケヤキ、クスノキ、キョウチクトウ、イロハモミジ、ツバキ、コブシ、ウメ、ツツジ類、アベリア、アジサイなどが植栽されている。

多目的広場東斜面地



虹と水の広場東斜面地



3) 土地利用

計画対象地周辺は市街化されており、公園に隣接する斜面あるいは台地部は比較的密度の高い住宅地となっている。計画地周辺は町田街道にほぼ接しており、駅にも近いことから早くから集落が広がっていた地域であると考えられる。

小田急線の開通した 1927 年（昭和 2 年）に公園の西北端の谷部が線路敷設（開通当時より複線）により造成され、現在の状況となったと考えられる。1952 年（昭和 27 年）に町田第二小学校が開校、都営住宅の入居が始まった 1941 年（昭和 26 年）頃から市内の人口も急激に増え始め、周辺の市街化が進んだ。

計画対象地西側の町田街道との間の区域は、第二種中高層住居専用地域や近隣商業地域に指定され、中高層マンションあるいは商業施設ビルなどが見られる。

一方計画対象地東側は、第一種低層住居専用地域（都営跡地は第一種中高層住居専用地域）に指定され、主に低層住宅や学校などが分布している。

1987 年（昭和 62 年）、町田市立国際版画美術館が開館し、公園にとってシンボルとしての美術館の存在と、芸術にふれる場としての緑豊かな公園の存在が、互いに魅力となって良い相乗効果を生んでいる。

町田市立国際版画美術館



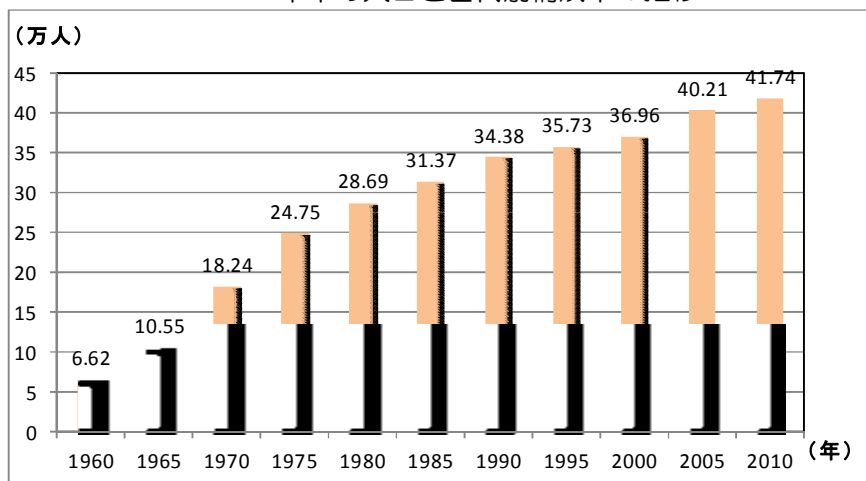
②社会概況

1) 人口

町田市の人口は、2015年（平成27年）4月1日現在、188,955世帯、426,659人である。（住民基本台帳）

町田市は、新宿、横浜より鉄道で約30分という都心への交通利便性もあり、郊外住宅地、商業地として急激な発展を遂げ、人口が増加した。その推移をみると、1965年（昭和40年）頃より増加が始まり、現在も増加傾向が続いている。

■本市の人口と世代別構成率の推移

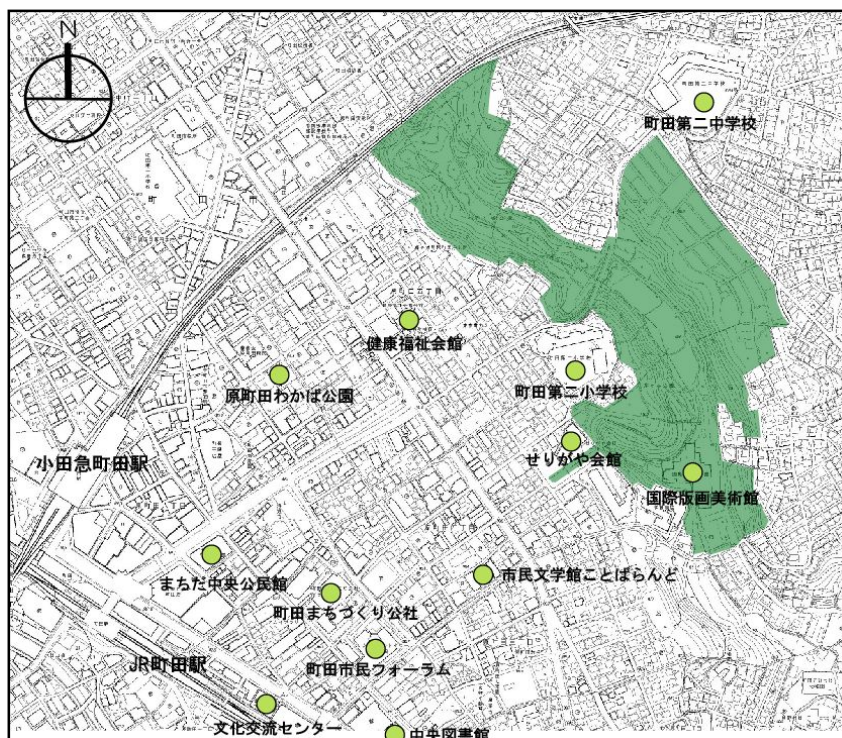


出典：国勢調査

2) 周辺の公共施設分布

町田駅から計画対象地周辺に至る区域に立地する主な公共施設は、下図に示すとおりである。町田市民文学館ことばらんどを始め、市立中央図書館、町田市民フォーラム、まちだ中央公民館などがあり、文化施設やホール・会議室等を有する文化活動、市民活動の拠点施設が多い。

■周辺の公共施設分布図

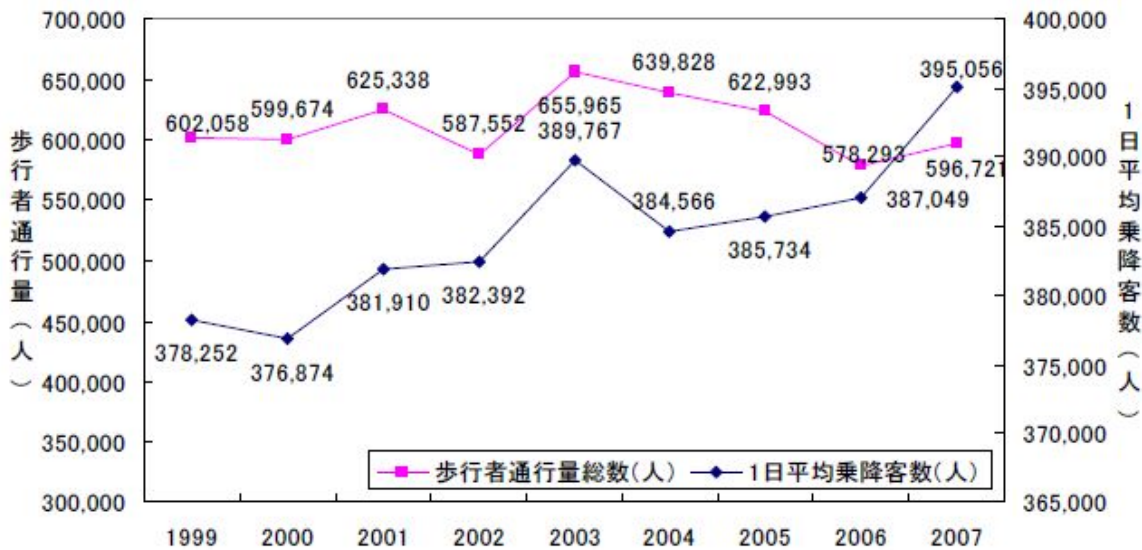


3) 駅前周辺の歩行者交通量

町田駅周辺の歩行者通行量（調査地点 27 箇所の通行量総数）は、約 60 万人前後で推移している。しかし、2004 年以降、町田駅（小田急・JR）の 1 日平均乗降客数の増加に反して、歩行者通行量は減少している。

また、地点ごとの推移を見ると、駅前通りから町田駅東口周辺、文学館通りに至る調査地点（7 箇所）において、2003 年前後から歩行者通行量が急速に減少している。これに対しペDESTリアンデッキ上の通行者が増加傾向にあることから、鉄道駅の乗り継ぎ客が中心市街地に来ていないことがわかる。

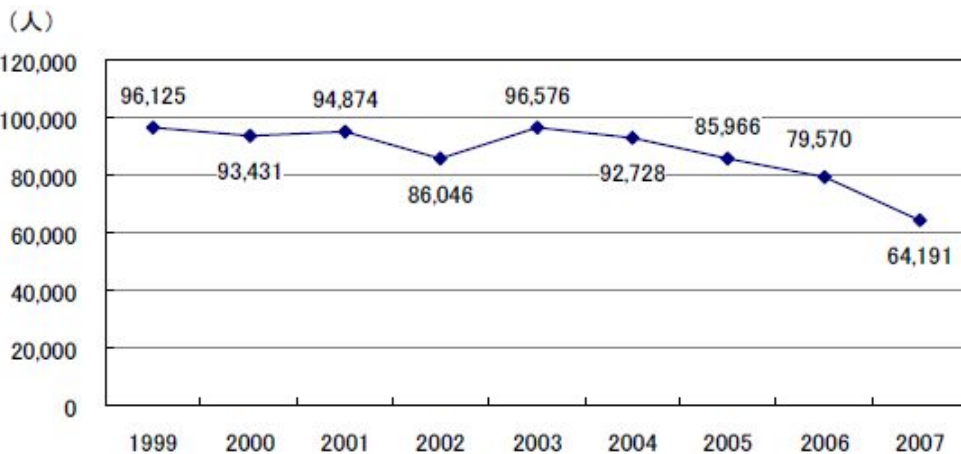
■歩行者通行量と町田駅 1 日平均乗降客数（小田急、JR の合計）の推移



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

■駅前通り（ペDESTリアンデッキ上を除く）・文学館通り（※）歩行者通行量

（※）イコービル前、みずほ銀行前、土方園前、大塚ビル前、JR 町田駅東口前、西友前の 7 つ地点合計値



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

③人文的概況

町田市は多摩丘陵に位置し、谷戸から流れ出る湧水や周囲から集めた雨水で恩田川、鶴見川などが形成され、早くから人は住み着いたといわれている。

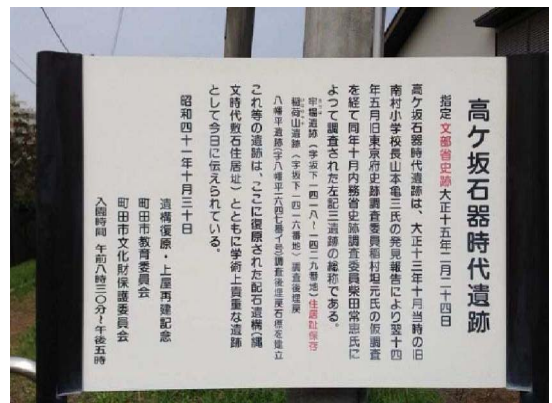
町田市小山町にある田端環状積石遺構は、ストーンサークル・集落跡・集団墓地と知られる縄文時代中期の遺跡で、1971年（昭和46年）3月29日に東京都指定史跡に指定された。遺構は盛土保存され、ストーンサークルのレプリカを置いている。

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には高ヶ坂石器時代遺跡（縄文式時代の集落跡）があり、丘陵地における住居跡発見の第一号として1926年（大正15年）に国の史跡に指定されている。

高ヶ坂石器時代遺跡は、鶴見川上流の恩田川沿いの低段丘上にあり、牢場、稲荷山、八幡平の3つの遺跡からなる。牢場遺跡からは縄文時代中期末（約4000年前）の敷石住居跡、稲荷山遺跡からは縄文中期から後期の配石遺構、計画対象地に最も近い八幡平遺跡からは縄文時代早期（約8000年前）の竪穴住居跡と中期末の敷石住居跡が発見された。

覆屋がつくられ、唯一保存公開されている牢場遺跡の住居跡は長径が西南5m、短径が3.5mである。

稲荷山遺跡は南西部が道路で切られており、断面に土器片、礫がみられたが、複雑で不整形な配石遺跡が確認されただけで、遺構の状況は不明である。八幡平遺跡では、直径3.45mの円形プランの敷石住居跡が発掘されている。



高ヶ坂石器時代遺跡の説明板

また、町田市には、中世から近世にわたる歴史街道がある。中世は鎌倉と北関東を結ぶ鎌倉街道の要衝として、近世には江戸後期から明治期にかけて多摩・甲州・上州などと横浜との交易に用いられた絹の道・八王子街道（神奈川往還）の一部である町田街道があり、八王子と横浜のほぼ中間となる原町田がその要衝として栄えた。

④景観の概況

町田市は多摩丘陵に属し、鶴見川、境川、恩田川やその支流は、起伏に富んだ丘陵に深く入り込み、その浸食によって形成された開析谷が発達した地形が市域のほぼ全域で見られる。

丘陵の尾根と谷によって形づくられたいくつもの谷戸が形成されたこのような地形が芹ヶ谷公園でも見られ、対象地の谷部はこのような谷戸の名残りであり、台地部は多摩丘陵の尾根部に続く丘陵面である。芹ヶ谷公園は、町田市の地形的特性を良くあらわし、その景観的特性を残しながら、地域のシンボルとして、まとまりある緑の景観を形成している。

また、芹ヶ谷公園は台地面より約20m低く、さらに斜面は樹林に覆われているため、芹ヶ谷公園周辺の住宅、マンション、学校などの建築物が公園内部からはほとんど視認できず、公園として良好な内部景観が維持されている。

(2) 上位関連計画等

上位・関連計画における芹ヶ谷公園を含む公園緑地の位置づけは、下記の通りで、計画内容から関連する項目を抜粋・整理する。

①上位計画

<p>町田市基本計画 「まちだ未来づくりプラン」 「町田市新5カ年計画」 〈2011年策定〉</p>	<p>基本政策3 みどり豊かなまちをつくる</p> <p>【めざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの公園や緑地など、市民が身近にみどりを実感できる環境が整備されている。 ●大規模な公園や緑地、良好な水辺環境が残され、市民がみどりとふれあい、憩うことができている。 <p>〈政策1〉 身近なみどりを増やす 〈政策2〉 まとまりのあるみどりを保全する</p> <p>【政策の取り組みの方向】</p> <p>市内に残された貴重なみどりを将来に引き継ぐため、緑地や農地の保全に取り組めます。</p> <p>■重点事業1 みどりの拠点整備（基本計画体系Ⅳ-3-2-2）</p> <p>〈事業概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のみどりの拠点を充実させるため、薬師池公園周辺をはじめとする公園や緑地の整備を進めます。
<p>町田市緑の基本計画 〈2011年改定〉</p>	<p>【緑の将来像】</p> <p>「町田の環境文化を育む多摩丘陵・里山回廊の保全・再生・活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町田の緑の将来像図に位置づけた18箇所の「水と緑の拠点」として、以下のような姿を目指します。 <p>⑭ 芹ヶ谷・かしの木山（水と緑の拠点）</p> <p>〈芹ヶ谷公園（風致公園）、かしの木山自然公園などを中心とした拠点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町田駅東側の市街地にありながら、豊富な湧水や雑木林等の豊かな自然環境に恵まれた芹ヶ谷公園と市街地に残るまとまった雑木林を有するかしの木山自然公園、更には敷地内に多くの緑を残す昭和薬科大学周辺などから構成される拠点です。

②各種関連計画

<p>町田市都市計画マスタープラン 〈2013年改定〉</p>	<p>【テーマ別のまちづくりの方針】（町田中心地域）</p> <p>ア) 町田らしい都市文化を育成する中心市街地の形成 〈にぎわいと交流の拠点形成〉</p> <p>（3）芹ヶ谷公園を活かした中心市街地の回遊の核の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芹ヶ谷公園とその隣接する都営跡地は、中心市街地に近接する立地、保全されている谷戸地形や湧水を活かしつつ、来街者や住民が憩い、楽しめる空間や見通しがきく明るい空間へと再生を図ることにより、中心市街地の回遊の核として育成していきます。 <p>（6）ゆとりある道路空間を活かしたにぎわいの創出と芹ヶ谷公園へのシンボルロードの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地から芹ヶ谷公園の玄関口へのシンボルロードとして、原町田大通り（町3・4・11）の延伸整備を検討し、駅から通り沿いの店先を楽しみながら公園に向かうことができるような通りの形成をめざしていきます。 <p>（7）文化施設の連携強化と文学館通りを中心としたゆったり歩けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文学館通りは、町田市立国際版画美術館へのアクセス路として、子どもからお年寄りまでだれもがゆったりと安全に歩ける空間とするため、地元と協働して、歩道の拡幅や無電柱化、広場空間の整備を進めます。 ●文学館通り周辺にある文化施設同士の連携強化を図るほか、土地の高度利用や建物の共同化などによる多世代が交流できる機能や居住機能などの誘導を図り、さまざまな人々が文化や芸術に親しみながら暮らし、楽しむことができる通りの形成をめざしていきます。
-------------------------------------	---

<p>第二次町田市環境マスタープラン 〈2012年策定〉</p>	<p>【望ましい環境像】 「水とみどりとにぎわいの調和した環境都市 まちだ」 施策2. 自然環境と歴史的文化的環境の保全 2-[1]みどりを守り、増やし、育て、活かす取り組みを進めます。 施策① 緑地の現状を把握し、公表します。 施策② みどりの保全を進めます。 2-[2]水辺の保全・活用と水循環の健全化を進めます。 施策① 水辺環境を保全します。 施策② 湧水地の保全、地下水保全のため、水源涵養域の保全、雨水の浸透を図ります。 施策③ 町田の水辺の魅力を発信します。</p>
<p>町田市景観計画 〈2009年策定〉</p>	<p>【地域別の景観づくりの方針】～原町田地域～ 〈芹ヶ谷公園や地域の北側に多いまとまりのある緑〉 ●芹ヶ谷公園は、豊かな樹木に囲まれ、駅の近くにありながら豊かな自然の風景と出会えます。町田市立国際版画美術館と公園内の緑が一体となり、多くの市民の憩いの場となっています。 ●まとまりのある緑は、地域のシンボルとして維持・保全し、それらを生かした景観拠点をつくります。 〈「商都」としてにぎわう町田駅周辺〉 ●文学館通りには「市民文学館ことばらんど」があり、芹ヶ谷公園内の町田市立国際版画美術館へつながる通りでもあります。 ●文学館通りは、文学館や町田市立国際版画美術館を結ぶ通りとして、文化的で人に優しい通りづくりにより、中心市街地の回遊性を高めます。</p>
<p>町田市中心市街地活性化基本計画 〈2009年策定〉</p>	<p>【基本的な方針】 〈憩い〉 ●にぎわいある商店街、町田市民ホールや町田市民文学館等の文化施設、中央図書館等の公共施設など、さらに中心市街地周辺の町田市立国際版画美術館、芹ヶ谷公園、境川など、中心市街地内外の要所をめぐりながら、街を楽しむことができるよう、歩きやすい歩行空間、休憩や交流に資する滞留空間を創出し、回遊性の高い歩行空間ネットワークを形成します。 〈集う〉 ●既存の文化施設、市民の活動を有機的に結びつけ、活発な文化活動・市民活動を支援する拠点としての役割を強化するとともに、店舗や事業所の誘致、町田ブランドの形成等を通じた中心市街地の情報発信機能の充実、町田駅東口から芹ヶ谷公園、町田市立国際版画美術館にかけての回遊ルートづくりにあわせた周辺地域のまちづくりなどを通じ、創造性のある文化・交流拠点としての機能を高め、人々が集えるまちをつくります。 〈潤い〉 ●八王子から三浦半島に至る多摩・三浦丘陵に位置する町田市は、北部丘陵をはじめ市域に豊かな自然環境が存在しており、中心市街地周辺にも芹ヶ谷公園の緑、境川の水辺のように自然が感じられる場所があります。中心市街地を取り巻く緑や水辺の環境に親しむことができ、市民、事業者、市の協働による花や緑にあふれるまちづくり、昔ながらの老舗店舗等をいかした景観づくりなどにより、周辺の豊かな自然環境と商都の界索性が調和した、潤いあるまちをつくります。</p>

<p>町田市中心市街地整備構想 〈2014年策定〉</p>	<p>【現状と課題】 (オ) 芹ヶ谷公園等へのアクセス ●芹ヶ谷公園は町田駅から至近の距離にありながら谷戸の地形を残しており、市民に親しまれている公園であるが、町田駅からのアクセス路が未整備であり、来街者への知名度が高いとは言えない。歩行者ネットワークを整備するなど、芹ヶ谷公園へのアクセス性を向上させ、回遊性を高めていく必要があります。</p> <p>【目標と方針】 ③誰もが快適に歩けるまちづくり (エ) 芹ヶ谷公園等をつなぐ歩行者ネットワークの形成 ●芹ヶ谷公園までの快適なアクセス路の整備 ●ネットワークの整備の方策 ●芹ヶ谷公園までのシンボルロードの形成 誰もが安心して、ゆったりと時間を過ごせる回遊性、滞留性に富んだ、憩いあるまちをつくりまします。</p>
<p>(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備基本計画 〈2014年策定〉</p>	<p>【計画策定の3つの背景】 ●さらなる「まち」の魅力を発掘、創造発信していく必要があります。 ●豊かな自然環境と優れた交通利便性をもつ町田は、さらなる都市の魅力を獲得しなければなりません。 ●文化芸術に触れる機会や場をさらに充実させる必要があります。</p> <p>【施設計画の考えかた】 (1) 周辺施設と連携した地域回遊動線の計画 中心市街地と芹ヶ谷公園をつなぐ結節点として、中心市街地からのアプローチの工夫、周辺地域を含むサイン計画を行い、施設の場所がわかりやすく、来館者の訪れやすい施設を目指します。また、車やバスでの来館の利便性にも配慮するとともに、中心市街地からの徒歩来館者の利便性についても最大限考慮します。</p> <p>(3) 環境や景観に配慮した施設づくり 町田市公共事業景観形成指針に基づいた計画により、周辺景観との調和を図ります。また省エネルギー性能の高い施設づくり、環境への影響が少ない工法や建設機械の採用等、環境負荷低減化に努めます。</p> <p>【来館者目標の設定】 年間来館者数目標を10万人とします。</p>

(3) 芹ヶ谷公園の利用概況

芹ヶ谷公園は、町田市の中心市街地に近接し、豊かな自然と多摩丘陵の郷土景観を残し、町田市を代表する公園の一つとして市民に広く親しまれている公園である。

春は「多目的広場」周囲に植栽されたソメイヨシノ、斜面に見られるコナラ、クヌギなどの新緑、秋には「芝生広場」、「大池」周辺のイロハモミジ、ヤマモミジなどの紅葉などを目当てに多くの人で賑わっている。特に谷戸の谷地を利用した公園であることから、現在も斜面下部の湧水が流れをつくり、風情ある水辺の景観が人々の目を楽しませている。

公園を利用する年齢層も多様で、斜面樹林地を活かした「冒険遊び場」には多くの子どもが集まり、自然の中で工夫を凝らした様々な遊びが展開されている。

自然が豊かで落ち着いたたたずまいから、中高齢者の毎日の散歩、小中学生のボール遊びや、幼児等の水遊び、休日には若いカップルの散策、親子連れのランチなど様々な利用がされている。

町田市立国際版画美術館が完成した 1987 年以降は、イメージを膨らませるアート作品、オブジェを展示するようになり、豊かな自然とアートな雰囲気誇る公園として知られるようになった。利用者も市の内外、他県からの利用者も増え、美術館見学と併せて公園内を散策する姿も多く見られるようになった。

また、市街地に近いというアクセスのしやすさから、近年はイベントの会場として利用されるようになり、町田さくらまつりや、町田時代祭りなど町田市を紹介する役割も担っている。

【イベントの実施状況】

●町田さくらまつり

サクラの最も美しい時期に、地元町内会や市内事業者を中心とした出店と様々なジャンルのステージが行われる。大道芸人などの参加もあり、様々なパフォーマンス、ことば探しゲームなどが実施される。

2014 年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2014 年 3 月 29 日(土)～3 月 30 日(日)

10:00～16:00

【会場】

芹ヶ谷公園多目的広場

【主催】

町田市経済観光部産業観光課 町田さくらまつり実行委員会事務局

【来場者数】

3/29(土) 12,000 人、3/30(日) 1,000 人、計 13,000 人 (30 日は荒天により 13:00 で終了)



町田さくらまつりの開催風景

●ゆうゆう版画美術館まつり

芸術の秋10月に、町田市と国際版画美術館友の会が開催。国際版画美術館前と館内の各室を使って様々なイベントを展開している。芸術を愛する市民のサークル等による「チャリティ・アートバザール」や近隣大学の学生による「アート・イベント」をはじめとして、館内での「木版画摺り体験」や「キッズ・アートスペース」、講演会やプロムナードコンサートなどを実施し、広く市民に国際版画美術館に親しみを感じてもらおう祭りとしている。

2014年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2014年10月11日(土) 10:00~16:30

12日(日) 10:00~16:00

【会場】

芹ヶ谷公園国際版画美術館前および国際版画美術館内

【主催】

町田市文化スポーツ振興部国際版画美術館、町田市立国際版画美術館友の会

【来場者数】

10/11(土) 3,633人、10/12(日) 3,110人、計6,743人



●町田時代祭り～鎌倉武士・農兵隊を思いつつ～

鎌倉時代活躍した武者の出で立ちや武芸などを通じて町田の歴史を振り返るイベント。流鏝馬（やぶさめ）、古武術演武などを披露するほか、鎌倉時代に活躍した小山田の武者一族、幕末に新選組の近藤勇、土方歳三らに剣術の指導を受けた小野路農兵隊にちなみ、武術のデモンストレーションがある。

行列では武者が馬や人力車とともに町田駅周辺を練り歩くほか、公園内では疾走する馬上からの的に矢を放つ流鏝馬、日本刀の試し切り、火縄銃の発砲などを間近で見ることができる。公園内には、名産品や飲食の販売ブースも出店した。

2014年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】平成26年10月26日（日）

【会場】芹ヶ谷公園多目的広場

【個別行事】

11：00～ 武者行列（町田商工会議所～原町田大通り～芹ヶ谷公園）

12：00～ 開会式（芹ヶ谷公園）

12：30～14：00 流鏝馬（芹ヶ谷公園）

14：00～15：00 居合抜刀（芹ヶ谷公園）

15：00～15：30 砲術演武（芹ヶ谷公園）



町田時代祭りの開催風景



同左（流鏝馬の演技）

(4) 関連施設の利用状況

①町田市立国際版画美術館

町田市立国際版画美術館は、芹ヶ谷公園内の南側に 1987 年に開館した。延床面積 7,840 m²で、版画を中心とした美術作品、資料約 28,000 点の収蔵を誇るわが国では珍しい版画美術品を収集、展示を目的とした美術館である。年間利用者は、約 16 万人（2013 年）である。

■町田市立国際版画美術館の利用者数の推移（単位：人）

年度	総数	企画展示室 (市民美術展も 含む)	常設展示室	ハイビジョン ギャラリー	講堂等	アトリエ	工房	市民展示室
2005 年度	136,831	44,572	27,384	7,656	5,889	4,148	2,815	44,367
2006 年度	161,233	53,638	36,852	10,326	5,752	4,535	2,940	47,190
2007 年度	159,083	48,623	40,197	11,178	5,499	3,982	2,678	46,926
2008 年度	154,345	52,036	31,674	8,893	8,204	4,200	2,718	46,620
2009 年度	166,846	58,652	35,119	9,830	6,749	4,120	2,507	49,869
2010 年度	157,081	57,015	32,709	9,173	7,070	3,946	2,455	44,713
2011 年度	149,724	59,323	35,798	3,220	5,364	4,503	2,475	39,041
2012 年度	184,707	74,101	41,365	10,703	7,988	4,042	2,472	44,036
2013 年度	159,989	62,805	37,696	9,115	6,433	3,549	2,528	37,863

■町田市立国際版画美術館の建築概要

部 門	室 名	面積(m ²)	部 門	室 名	面積(m ²)	階 数	備 考	面積(m ²)
展示部門	常設展示室	229.0	普及部門	ビデオコーナー	44.9	3階	(屋根裏1648.9含む)	2078.2
	企画展示室1	682.0		アトリエ	86.4	2階		2622.7
	企画展示室2	292.0		版画工房	131.7	1階		2783.7
	(小 計)	1203.0		講師控室	12.3	地階		355.6
収蔵部門	前室	27.0		暗室	24.0	合 計	(延床面積)	7840.2
	収蔵庫	399.5		腐蝕室	18.1			
	図書資料室(1)	41.3		アトリエロッカールーム	34.0			
	図書資料室(2)	115.1		講堂	230.1			
	ネガ保管室	38.9		映像室	21.3			
	(小 計)	621.8		市民展示室	252.0			
学芸部門	学芸員室	51.5		同前室	24.7			
	美術資料閲覧室	21.5		控室	19.5			
	写真室	38.0		ロビー	19.0			
	暗室	13.0		ハイビジョンギャラリー	26.0			
	倉庫	9.1	(小 計)	944.0				
	整理室	108.9	共通部門	エントランスホール	361.6			
(小 計)	242.0	ロビー	284.3					
管理部門	館長室	32.0	喫茶室	59.4				
	応接室	33.2	荷卸室	70.5				
	会議室	56.0	荷解室	170.1				
	事務室	62.8	休養室	13.4				
	受付控室	19.2	更衣室	28.0				
	清掃員室	16.6	その他	3600.0				
	警備室	22.3	(小 計)	4587.3				
	(小 計)	242.1	合 計	(屋根裏1648.9含まず)	6191.3			

竣工：1986年8月

資料出典：文化振興課資料、建築概要は市HP

②町田市民文学館ことばらんど

町田市民文学館ことばらんどは、1階に図書館機能、2階に展示機能、3階に施設貸出機能を持ち、町田ゆかりの文学者たちの著書などを所蔵する施設で、2006年10月に開館した。

中心市街地内にあり、子どもから大人まで幅広い層から親しまれ、年間約6万7千人（2013年度）利用者がある。

町田駅から芹ヶ谷公園及び町田市立国際版画美術館へのルートの途中にあることで、相互的な利用傾向があると考えられる。

■町田市民文学館ことばらんどの利用状況

年度			図書館業務				展覧会		会議室		保育室	
	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出人数	団体貸出冊数	団体貸出件数	開催日数	観覧者数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
2006	125	14,955	1,771	1,003			114	8,240	759	8,278	32	418
2007	303	43,391	4,369	2,447	102	34	255	13,566	2,742	28,680	88	1,337
2008	302	48,961	5,731	2,843	184	62	221	17,331	3,191	33,779	103	1,401
2009	302	61,555	5,810	3,127	106	48	246	19,581	3,350	41,757	108	1,558
2010	301	53,903	4,961	2,688	223	100	216	19,226	3,492	36,967	119	1,859
2011	300	59,084	5,280	2,786	143	55	235	26,231	3,632	39,482	121	1,817
2012	302	64,773	6,206	3,053	194	68	232	22,148	3,736	37,597	173	2,136
2013	303	66,971	8,304	3,630	199	71	228	14,902	3,763	40,676	169	1,903
合計	2,238	413,593	42,432	21,577	1,151	438	1,747	141,225	24,665	267,216	913	12,429

資料出典：文化スポーツ振興部

3. 計画の課題

(1) 中心市街地との関連性からみた課題

① 中心市街地における芹ヶ谷公園の位置づけの検討

町田市中心市街地整備構想(2014年3月策定)では、中心市街地に近接する芹ヶ谷公園とのつながり強化の方向性が打ち出されている。その中で歩行者アクセスの充実として、文学館通りの歩道拡幅、無電柱化、さらに公園へのシンボルロードの形成として、原町田大通りの延伸などが挙げられている。

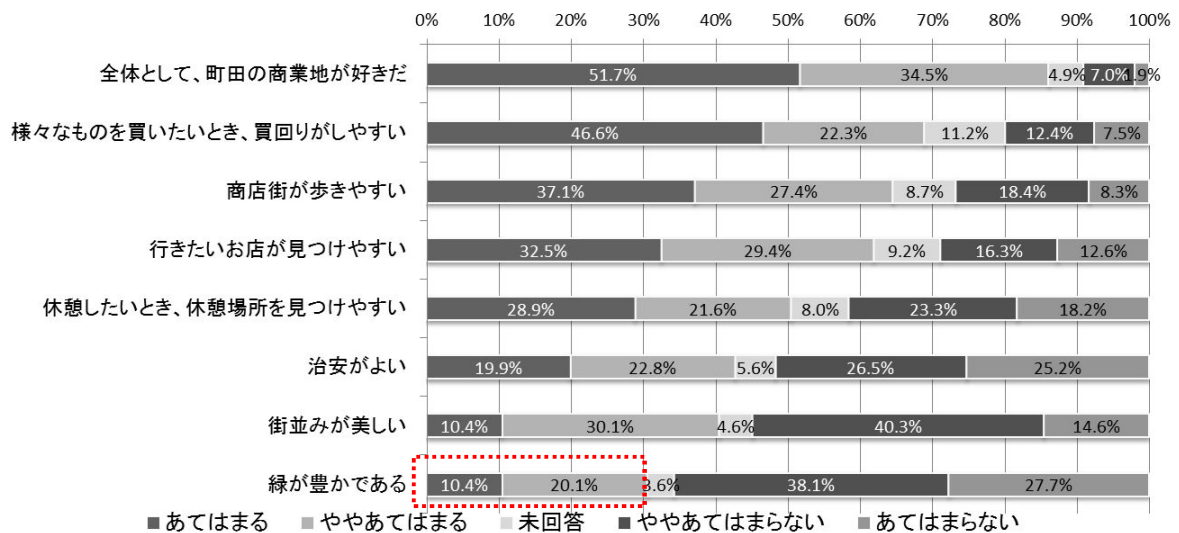


原町田大通り

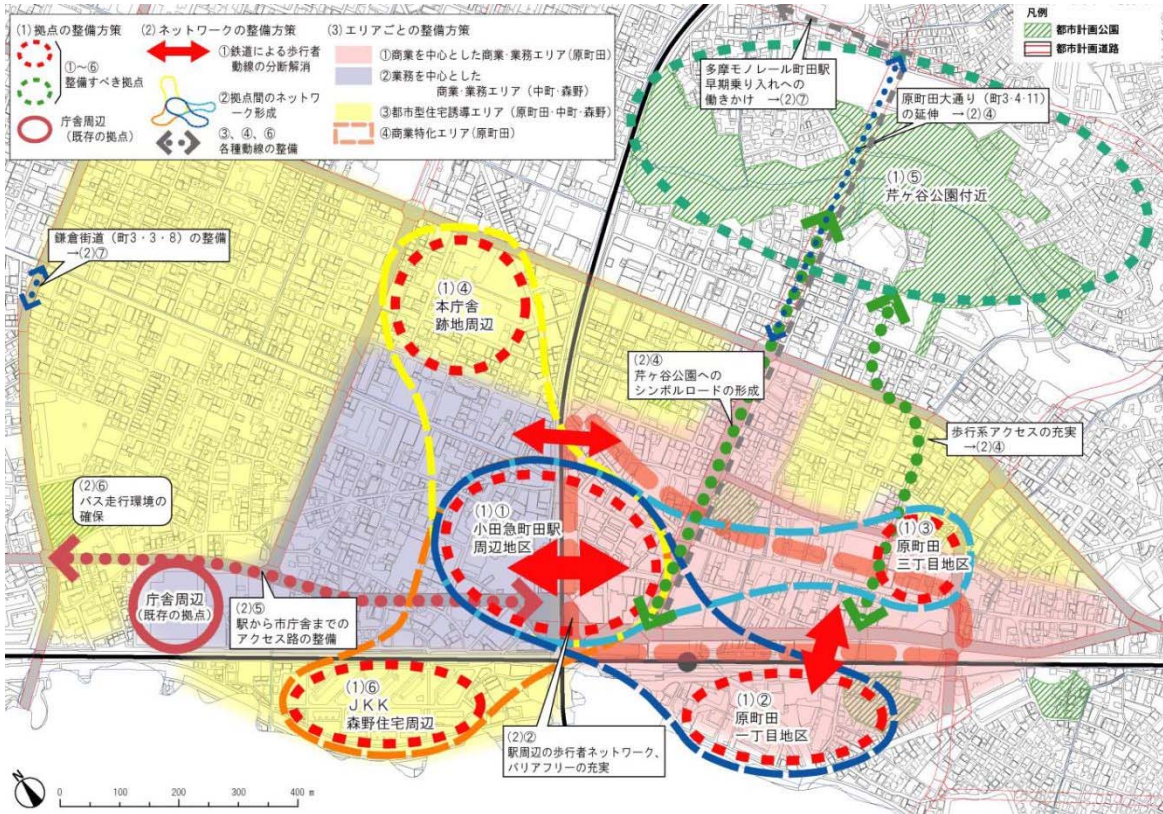
2013年8月に実施された町田駅利用者街頭アンケートでは、駅周辺の商業施設に対する印象について、「緑が豊か」というのは低評価で、回答者の約3割にとどまっている。芹ヶ谷公園が中心市街地に近接しながらも、町田駅から国際版画美術館までは徒歩圏内の距離であり、駅周辺施設とは認識されていないと考えられる。

芹ヶ谷公園は中心市街地の活性化において重要と位置づけられながら、現状では中心市街地との一体性が感じられていないことが課題である。

【参考】町田駅利用者街頭アンケート結果（町田駅周辺商業地を利用するにあたっての評価）



■ 中心市街地整備方針図



出典：町田市中心市街地整備構想（2014年3月）

② 中心市街地のまちづくりと一体的な再整備

2013年5月～7月に実施された中心市街地整備構想検討の意見交換会では、「ショッピングモール感覚で吉祥寺駅から井の頭公園までのルートのように回遊性を高められるとよい」という意見があった。

中心市街地活性化において歩行者の回遊性促進は有効な方策であり、市街地に近接する芹ヶ谷公園は回遊性を誘発する大きな核である。芹ヶ谷公園の再整備は、文学館通りの整備と一体的に行っていく必要がある。さらに原町田大通りでのアートストリート、ストリートファニチャーの展開などによって芹ヶ谷公園への回遊性も検討すべき課題である。



文学館通り（左）と歩道の埋め込みサイン（右）

(2) 植栽の配置に関する課題

①木の密度や高木と低木のあり方の検討

公園の樹林及び植栽は、四季の移ろいなど季節感や癒しを感じる上で重要な要素であるとともに、野鳥を始め生態系の保全にとっても重要な役割を果たしている。一方で、植栽樹木の高密度等でできた死角、枯れ枝の飛散・枯木による倒木事故など、利用者の安全確保にとって植栽の適正な配置、管理は重要である。

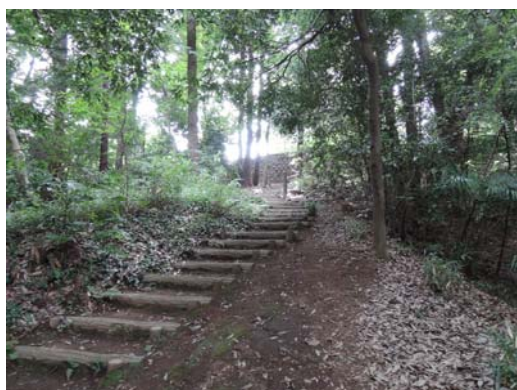
公園は谷戸を利用した公園で、斜面には落葉広葉樹林の二次林（雑木林）やスギ、サワラの植林、実生で育った常緑樹、さらに谷部の園地には公園木として植栽された高木、低木が数多く存在し、開園後長い年月が経過している。

このようなことから、植生の状況を踏まえながら、見通しを確保するための樹木の伐採、間伐などで密度調整し、利用想定を前提にして、明るく開けたエリアなどを形成していく必要がある。

②昼間でも暗いうっそうとした雰囲気改善

遊具周辺、トイレ周辺、園路沿いなどでは見通し確保が必要である。また、夏、冬の日照条件や方位などに応じた植栽や既存樹木について、暗く見通しが悪いなど問題のある場所については、改善が必要である。

現場での調査・確認結果をもとに、支障となる樹木の処理（伐採、枝など一部伐、移植等）により、うっそうとした雰囲気を改善して明るい空間づくりを行う必要がある。



園路の周囲は一定の見通しが必要

③四季折々の見所の創出

園内にはソメイヨシノやヤマザクラの植栽のほか、イロハモミジ、ヤマモミジなどの紅葉を楽しむ樹種も多い。このほか花の美しいユリノキ、ハウノキ、ツバキ、ウメなどの高木、アジサイ、アベリア、ツツジ類などの四季を感じさせる低木も多い。

一方で、美しい地被類や草花などの植栽、花壇などがなく、面的にまとまった季節の彩り、四季折々の見所があるという印象は薄い。

(3) 新しい楽しみ方の創出のための課題

①食事ができる施設の充足

現在、町田市立国際版画美術館にある飲食施設だけでは、公園再整備、(仮称)町田市立国際工芸美術館建設後の利用者増加や中心市街地との回遊性促進という課題に対応できないと考えられる。公園利用の魅力をより高めるためには、新たな飲食施設の導入について検討する必要がある。

②隣接する八幡平遺跡を「地域の歴史」として学べる施設の検討

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には高ヶ坂石器時代遺跡(縄文式時代中期の敷石住居跡)があり、1926年(大正15年)に国史跡に指定されている。このうち、八幡平遺跡は計画対象地に最も近く、直径3.45mの円形プランの敷石住居跡が発掘されている。

地域の歴史を学べる施設として、本公園内に展示施設を整備することは意義があり、施設の配置、内容等を検討していく。

③芸術の杜にふさわしい整備と(仮称)町田市立国際工芸美術館の調和

(仮称)町田市立国際工芸美術館については、施設の配置、建築デザイン等において、公園と調和した整備を図っていく。

④子どもたちの安心・安全な遊び場環境の提供

子どもの遊び場として、現況では多目的広場や冒険広場が設置されているが、冒険広場は施設の老朽化や周辺からの見通し確保などの課題があり、リニューアルを検討する必要がある。

なお2014年(平成26年)9月に自然と子どもの冒険心を融合させた新しい施設としてNPOによる冒険遊び場の運営がスタートした。様々なプログラムを展開し、子どもが「やってみたいと思うこと」を実現しながら、限りない好奇心と貴重な自然体験ができる場となっている。



2014年(平成26年)9月23日にオープンした「せりがや冒険遊び場」

(4) アクセス性の向上

①安全かつ快適なアクセスの検討

本公園は、谷戸の地形を生かした公園であるため、特に高齢者や幼児にとって坂道、階段などによる公園へのアクセスに課題があるという指摘がある。また、JR 町田駅から公園の桜並木口までの距離約 700mについても、高齢者、幼児にとって負担となる。

さらに、交通の多い町田街道を横断すること、公園の位置がわかりにくいという意見もあり、より安全かつ快適なアクセスができるようにしていく必要がある。

②案内看板の整備など楽しみながら歩ける工夫

サインは、街を楽しく歩く上で必要であり、ピクトグラムなどデザイン化することで単なる施設ではなく、街を歩きやすく楽しんで歩ける役割を果たす。芸術の杜としてふさわしい芹ヶ谷公園へ誘導するには洗練されたサインが必要であり、中心市街地で統一されたデザインをもとに整備していく必要がある。

③新たな駐車場用地の検討

現在、公園の駐車場は町田市立国際版画美術館入口付近にあり、普通車 37 台と身障者専用駐車スペース 1 台の計 38 台である。(臨時駐車場として美術館から 200m離れた民地を駐車場として借地利用している)

大型駐車スペースはないため、大型車を利用した学校や団体での利用、観光での利用ができず、必要に応じて公園以外の場所での待機利用となる。今後の公園、美術館利用者の利便性向上と利用者数の増加を図るため、新たな駐車場の整備等を検討する。



公園駐車場

④送迎バスの運行や新たなアクセスの開拓

町田駅からのアクセスについては、公園や美術館まで距離があり、徒歩圏としてはやや遠いことから、送迎バスの運行が求められている。

今後、回遊性や利便性の向上を図るため、バス運行の社会実験を実施する等、費用面なども考慮しながら適切なアクセス手段を検討していく必要がある。

(5) 防犯、防災機能の充実

①死角の解消、夜間の暗さの改善などの治安向上

植栽の配置に関する課題に関連し、特に遊具や園路周囲においては、植栽による死角が利用者に不安を与えている。見通しを確保するための伐採や園路沿いの過密樹林地の改善などを図っていく必要がある。

また、本公園は夜間も解放されているため、園内の防犯対策として防犯連絡設備の設置、照明の配置の検討、照度の点検などを行う必要がある。



遊具やトイレ周辺の死角の解消が必要

②大規模災害時の避難拠点として防災機能の充実

芹ヶ谷公園は、災害時に一時的な避難や安全確認を行うために集合する避難広場に指定されており、これに対応した安全なアクセス路の整備、防災公園施設（かまどベンチ、防災あづまや、防災トイレなど）、給排水施設、防災無線などの通信機能整備を公園再整備に合わせ、進めていく必要がある。

特に避難スペース、避難順路、物資搬入路、備蓄機能についての検討が必要である。

(6) 公園予定地の活用

①町田荘跡地の活用

町田荘跡地については、様々な要望やアイデアがあり、それらを整理するとともに、(仮称)町田市立国際工芸美術館との関係性を含め、新たな導入施設を検討していく必要がある。



町田荘跡地

②都営跡地の活用

都営跡地は、谷部にある公園敷地と異なり台地上にあり、その広さや開放感、アクセスなどこれまでの公園にない場所である。この開放感のある空間の魅力を引き出し、魅力的な活用を検討していくことが求められている。



都営跡地